# The 1st. D-STEP & The 36th DDBJing /

第1回 D-STEP 講習会 & 第36回 DDBJing講習会

2018 (H30) Jan. 26th. 10:00 - 12:00

Takeshi Kawashima / 川島武士 / かわしまたけし

# 本日の方針

#### 参加者の皆さんには

- 1. NIG (国立遺伝学研究所)の大型計算機にアクセスし、
- 2. Unix[系]のコマンドを利用し
- 3. 塩基配列データを対象とした配列解析を行う

ための基礎を身につけてもらいます。

ほとんどの内容は、NIGの大型計算機に特化した内容ではなく、他の多くの大型計算機センターでの利用時に通じるものだと思います。ジョブ管理システム(キューイングシステム)は、NIGの大型計算機で採用しているUGE (Univa Grid Engine)を前提に説明しますが、他の大型計算機センターにおいても概ね同じようなシステムが動いていますので、参考になるはずです。





# 本日の目標、7項目

関連キーワード

- 1. 自分が利用している環境について知る
  - Is, Ifs, pwd, /usr/local/seq, etc.
- 2. キューイングシステムを利用する
  - qlogin, qsub, qstat, qdel, qreport, etc.
- 3. 欲しいデータを取得する
  - DDBJ, DRA / ftp, wget, tar, gzip, bzip2, etc.
- 4. 自分の環境を使いやすくする
  - .bashrc, ローカルへのインストール, 環境変数 etc.
- 5. マッピング作業
  - bowtie2, etc.
- 6. キューイングシステム利用のための簡単なBASHプログラミング
  - bash, アレイジョブ(SGE\_TASK\_ID)
- 7. (時間に余裕があれば) 描画のための簡単なRプログラミング

• R

**NIG Super Computer** 

ジョブ管理システム

生物データベース

UNIX

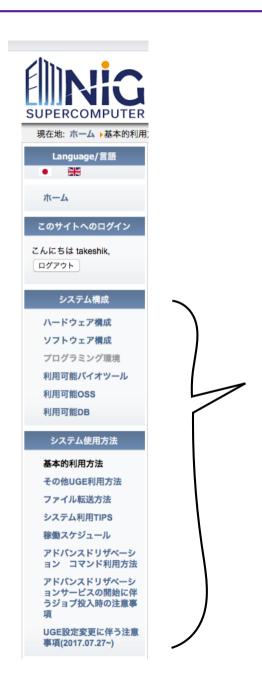
**Genome Informatics** 

ジョブ管理システム

Visualize



## 1-1. 自分が利用している環境について知る (1/8)



この辺りに書いてあります





(cc) BY

## 1. 自分が利用している環境について知る

大型計算機へのログインの方法についておさらいし、 Unixの基本的なコマンドを学びます。





#### 1-2-1. スパコンへのログインの方法 (2/8)

```
# 白分のパソコンのターミナルにて
1s
                                       # エルエス
1s -1
# ssh <your-login-id>@gw2.ddbj.nig.ac.jp
DSTEPMac:TOSHIBA dstep$ ssh dstep@gw2.ddbj.nig.ac.jp
Last login: Thu Jan 11 13:08:03 2018 from xxx.xx.xx
Thank you for using supercomputer system.
This node is in use for login service only. Please use 'glogin'.
[dstep@qw2 ~]$ qloqin
# 自分のパソコンのターミナルに戻る
[dstep@qw2 ~]$ exit
[dstep@qw2 ~]$ exit
#id rsa.pubの設定がややこしくなってきた時、id rsaのファイルをあえて指定する
# ssh -i <your-login-id>@gw2.ddbj.nig.ac.jp
DSTEPMac:TOSHIBA dstep$ ssh -i ~/.ssh/id rsa.nig dstep@gw2.ddbj.nig.ac.jp
Enter passphrase for key '/Users/dstep/.ssh/id rsa.nig':
Last login: Thu Jan 11 13:08:03 2018 from xxx.xx.xx
Thank you for using supercomputer system.
This node is in use for login service only. Please use 'glogin'.
[dstep@gw2 ~]$ qlogin
```







#### 1-2-2. スパコンへのログイン (3/8)

```
# 自分のパソコンのターミナルに戻る
```

```
[dstep@gw2 ~]$ exit
[dstep@gw2 ~]$ exit

# X window システムを自分のターミナルに飛ばす

# ssh -X <your-login-id>@gw2.ddbj.nig.ac.jp

# ssh -Y <your-login-id>@gw2.ddbj.nig.ac.jp

DSTEPMac:TOSHIBA dstep$ ssh -Y dstep@gw2.ddbj.nig.ac.jp

Last login: Thu Jan 11 13:08:03 2018 from xxx.xx.xx.xx

Thank you for using supercomputer system.

This node is in use for login service only. Please use 'qlogin'.

[dstep@gw2 ~]$ qnuplot
```

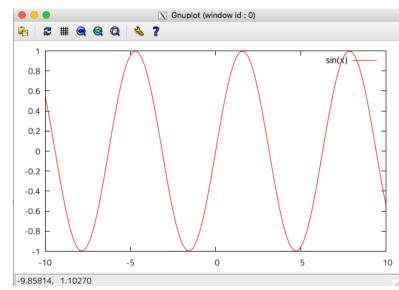
#### # ここからはgnuplot

[dstep@nt098 ~]\$ gnuplot

G N U P L O T
Version 4.4 patchlevel 4

Terminal type set to 'wxt'
gnuplot> plot sin(x)

gnuplot> quit()









## 1-2-3. スパコンへのログイン (4/8)

```
# ここからはR

[dstep@nt094 ~]$ R

R version 2.14.1 (2011-12-22)

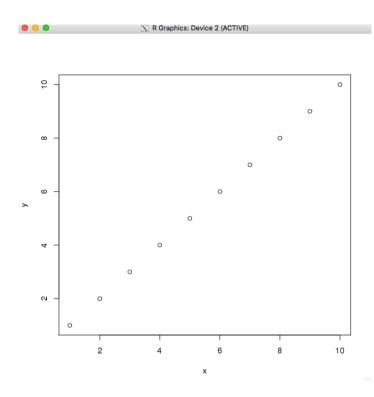
> x <- 1:10

> y <- 1:10

> plot(x, y)

# Rからでる

> q()
Save workspace image? [y/n/c]: n
```







#### 1-3. 利用可能なディスクスペース (5/8)

```
# gloginしたターミナルにて
1s
ls -1
ls -1 /home
ls -1 /home | grep dstep
[dstep@nt096 ~]$ ls -1 /home | grep dstep
lrwxrwxrwx 1 dstep
                                     22 4月 8 10:43 2016 dstep -> /
                       ma-niq
lustre3/home/dstep
[dstep@nt096 ~]$
# この場合、自分のホームディレクトリが /lustre3 にあることがわかる。
# なおphase2の利用ユーザーは、lustre1からlustre5までのどれかに振り分けられている。
[dstep@nt096 ~]$ lfs quota -u dstep /lustre3
Disk quotas for user dstep (uid 3907):
    Filesystem kbytes quota limit
                                                          limit
                                            files
                                                   quota
                                     grace
                                                                  grace
      /lustre3 200000000
                            0 1000000000
                                             - 7000000
                                                            0
# この場合、自分には /lustre3の元で1000000000 kbyte (=1Tbyte)割り当てられており
# そのうち200000000 kbyte (=200Gbyte)利用していることが分かる。
```







#### 1-4. 環境変数 (6/8)

```
# gloginしたターミナルにて
echo "TEST"
printenv
printenv
           WC
printenv
          sed -e "s/=.*//"
echo $HOME
echo $SHELL
echo SPWD
echo $USER
echo SPATH
time
which time
[dstep@nt098 ~]$ which time
/usr/bin/time
                                  # time コマンドは /usr/binの下においてある
echo $PATH
                                  # /usr/binというディレクトリは確かに環境変数PATHの中に記載されている
[dstep@nt098 ~]$ echo $PATH
/home/geadmin2/UGER/bin/lx-amd64:/usr/lib64/qt-3.3/bin:/opt/pgi/linux86-64/current/bin:/
usr/kerberos/sbin:/usr/kerberos/bin:/usr/local/pkg/java/current/bin:/opt/intel/xe 2016/
compilers and libraries 2016.1.150/linux/bin/intel64:/opt/intel/xe 2016/
compilers and libraries 2016.1.150/linux/mpi/intel64/bin:/opt/intel/xe 2016/debugger 2016/
gdb/intel64 mic/bin:/usr/local/bin:/bin:/usr/bin:/usr/local/sbin:/usr/sbin:/opt/
```







ibutils/bin:/opt/intel/itac/8.1.3.037/bin:/home/dstep/local/bin:/home/dstep/bin

#### 1-5. 利用可能OSS (7/8)



		· -	
	0.5.9	/usr/local/pkg/bwa/0.5.9	o o o o 2012/02/07 11:07
	1.6	/usr/local/pkg/canu/v1.6	o o o o 2017/10/19 14:22
canu	4.5	/usr/local/pkg/canu/v1.5	o o o o 2017/05/18 15:42
	1.5	/usr/local/pkg/canu/current	o o o o 2017/05/18 15:42
	0.69-6	/usr/local/nkg/circos/0.69_6	0 0 0 0 2017/10/19 14:36

#### /usr/local/pkg/canu/current

[dstep@nt094 ~]\$ /usr/local/pkg/canu/current/bin/canu --version

Canu snapshot v1.5 +43 changes (r8243 f05c81531c19887459ca53ac3702509ee70eac22)

# full pathを打たないで使えるようにしたい

[dstep@nt094 ~]\$ canu

-bash: canu: コマンドが見つかりません

# 環境変数 PATHを設定することで、利用可能になります





#### 1-6. 自分が利用している環境について知る (8/8)



ここまでで、

適切にログインし、

自分の環境を確認し、

適切なプログラムへPATHを通す、ことができるようになりました。





#### 2. キューイングシステムを利用する

大型計算機利用時に特有のジョブ管理システム(キューイングシステム) について学びます。

ただし**最低限**知っていなければならないことは、すでに1.で学んだように、 **ログイン時にすぐqlogin**コマンドを打つことです。

とはいえ、ゲノム解析などを実際に行うには、**キューイングシステム**について、正しい理解が必要です。ここでは実際にqsubコマンドを利用してみましょう。





#### 2. キューイングシステムを利用する (1/6)

```
glogin, qsub, qstat, qdel, qreport, etc.
# gsub経由で利用するプログラムを作成する
# 参考用に、time.qsubというプログラムを作成しました。
# 下記リンクから取得してください。
 (gitを普段利用している方へ:
 ここでは説明のため、あえてgitの機能を利用せずにwgetで取得しています。)
wget https://raw.githubusercontent.com/tkwsm/DSTEP20180126/master/time.gsub
wget https://raw.githubusercontent.com/tkwsm/DSTEP20180126/master/time.sh
[dstep@nt096 tmp]$ wget https://raw.githubusercontent.com/tkwsm/DSTEP20180126/master/time.qsub
--2018-01-11 16:55:38-- https://raw.githubusercontent.com/tkwsm/DSTEP20180126/master/time.gsub
                                               --.-K/s 時間 0s
100%[=======] 236
2018-01-11 16:55:38 (24.8 MB/s) - `time.qsub' へ保存完了 [236/236]
gitを普段利用されている方は下記の方が楽です。
 DSTEPMac:tmp dstep$ qit clone qit@qithub.com:tkwsm/DSTEP20180126.qit
 Cloning into 'DSTEP20180126'...
 Checking connectivity... done.
 DSTEPMac:tmp dstep$ 1s
 DSTEP20180126
 DSTEPMac:tmp dstep$ cd DSTEP20180126/
 DSTEPMac:DSTEP20180126 dstep$ 1s
 README.md time.qsub time.sh
```





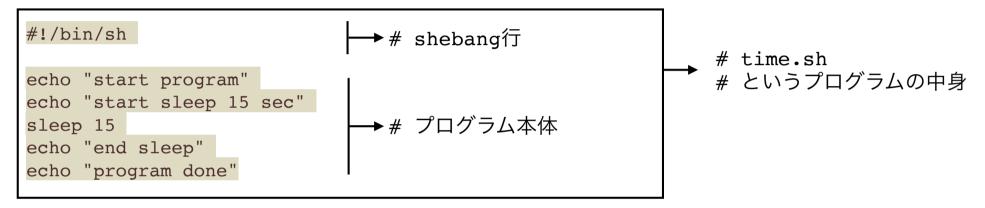


## 2. キューイングシステムを利用する (2/6)

```
# time.sh というプログラムが取得できたかどうかを1sで確認する
[dstep@nt096 tmp]$ 1s
time.sh
```

# time.sh というプログラムの中身をcatで確認する

[dstep@nt096 tmp]\$ cat time.sh



# time.sh というプログラムを実行してみる

```
[dstep@nt094 dstep20180126]$ bash time.sh
start program
start sleep 15 sec
end sleep
program done
[dstep@nt094 dstep20180126]$
```





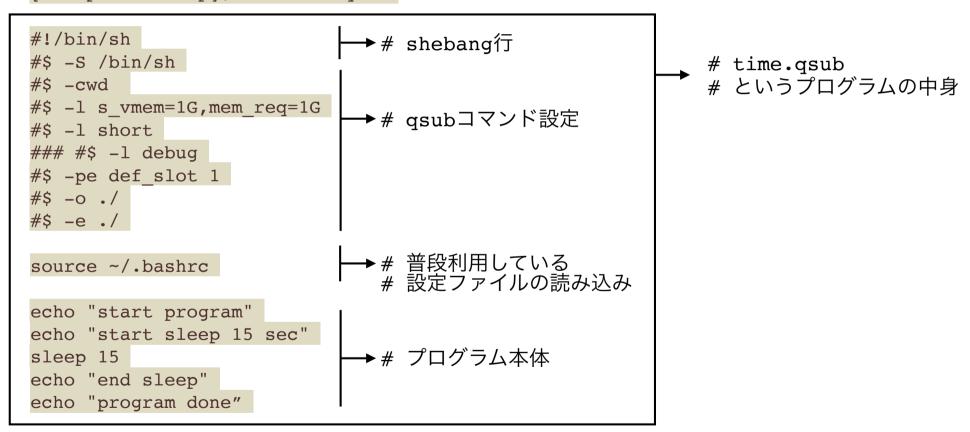


## 2. キューイングシステムを利用する (3/6)

```
# time.qsub というプログラムが取得できたかどうかを1sで確認する [dstep@nt096 tmp]$ 1s time.qsub
```

# time.qsub というプログラムの中身をcatで確認する

[dstep@nt096 tmp]\$ cat time.qsub



[dstep@nt096 tmp]\$







## 2. キューイングシステムを利用する (4/6)

# time.qsub というプログラムを実行してみる

[dstep@nt094 dstep20180126]\$ qsub time.qsub
Your job 10384431 ("time.qsub") has been submitted

#### [dstep@nt094 dstep20180126]\$ qstat

job-ID	prior	name	user	state	submit/star	t at	queue	jclass	slots j	a-task-ID
10384220	0.25036	QLOGIN	dstep	r	01/16/2018	11:36:44	login.q@nt094i			1
10384431	0.00000	time.qsub	dstep	qw	01/16/2018	12:35:25				1

#### [dstep@nt094 dstep20180126]\$ qstat

job-ID	prior	name	user	state	submit/sta	rt at	queue	jclass	slots	ja-task-ID
10384220	0.25040	QLOGIN	dstep	 r	 01/16/2018	11:36:44	login.q@nt094i			1

#### [dstep@nt094 dstep20180126]\$

#### [dstep@nt094 dstep20180126]\$ 1s

time.sh time.qsub

time.qsub.e10384431 time.qsub.pe10384431 time.qsub.o10384431 time.qsub.po10384431

▶# 標準出力と標準エラー出力



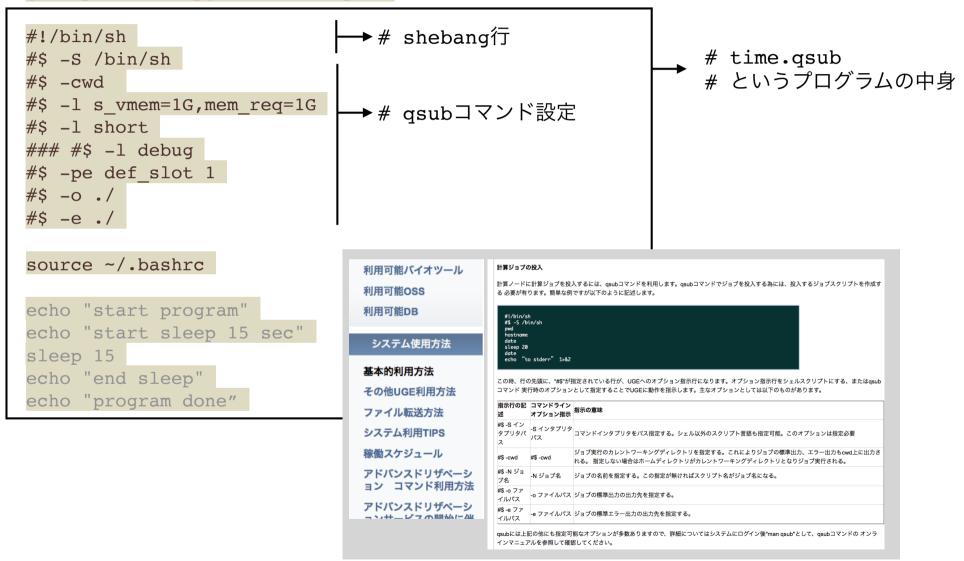




#### 2. キューイングシステムを利用する (5/6)

# time.qsub というプログラムの中身をcatで確認する

[dstep@nt096 tmp]\$ cat time.qsub



NIG スパコンのシステム使用方法のあたりに詳しく書いてあります。







## 2. キューイングシステムを利用する (6/6)

ここまでで、

適切にログインし、 UGEキューイングシステム(qsubコマンドなど)を使って、 計算機を利用できるようになりました。





#### 3. 欲しいデータを取得する

大型計算機によるゲノム解析の特徴の一つは、事前に大量の生物学データを自分の計算機環境にアップロードする必要があることです。そのような生物学データは多くの場合、既存の配列データベースに登録されているものや利用者自身が取得したNGS等による配列データでしょう。NIGの大型計算機では、主要な生物学データベースがすでに相当数整備され、常時アップデートされています。これらのデータベースの利用方法を学びましょう。またNIGの大型計算機に整備されていないデータベースについてはご自身で最新のデータをダウンロードしてこなくてはなりません。そのために必要な知識としてftp, wgetなどのコマンドの利用方法を学びましょう。

- 3-1. NIGのスパコンにすでに整備してあるデータベースを利用する
- 3-2. その他のゲノムの基礎データの登録サイト
- 3-2. DRAから取得





#### NIGのスパコンにすでに整備してあるデータベースを利用する



#### スーパーコンピュータシステム 利用可能DB

スーパーコンピュータシステムでは、各計算ノード、各口グインノードから各種バイオ系DBが利用可能です。

#### 1.DDBJ,NCBI,EBI等の公共DBを利用したい場合

スーパーコンピュータシステムにて利用可能なDBおよびパスは利用可能DB一覧をご覧下さい。

#### 2.DRAを含むその他のDDBJ DBを利用したい場合

上記利用可能DB以外のDDBJ DBについては下記方法にてデータをコピーしてご利用下さい。

#### 利用可能DB一覧

DB名	パス (/usr/local/seq/)		設置されているファイルの詳細	更新頻度	
DDBJ- unified-all	fasta/	ddbj-unified- all/	- ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/ddbjnew/unified-all/fasta/以下を解凍 したFASTA形式ファイル	毎日	
	blast/	uii	ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/ddbjnew/unified-all/blastdb/以下を解 凍したBLASTデータベース		
DDBJ- unified-	- fasta/	ddbj-unified-	- ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/ddbjnew/unified-new/fasta/以下を解 凍したFASTA形式ファイル	毎日	
new	blast/	liew/	ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/ddbjnew/unified-new/blastdb/以下を解凍したBLASTデータベース		
	flat/		ftp://ftp.ncbi.nih.gov/genbank/以下の*.seqファイル、およびWGSファイル	Pot: n=	
GenBank	fasta/	genbank/	上記のFASTA形式ファイル	随時	
	blast/		上記FASTA形式ファイルのBLASTデータベース		
ODI-	flat/		ftp://ftp.ncbi.nih.gov/genbank/daily-nc/以下の全ファイル		
GenBank- UPD	fasta/	genbank-upd/	上記ファイルの内*.flatのFASTA形式ファイル	毎日	
	blast/		上記FASTA形式ファイルのBLASTデータベース		
GenPept	- fasta/	genpept/	- GenBankのseqファイル内の翻訳可能なエントリを翻訳したFASTA形式 ファイル	随時	
	blast/		上記FASTA形式ファイルのBLASTデータベース		
GenPept- UPD	fasta/ goppont und/		- GenBank-UPDの*.flatファイル内の翻訳可能なエントリを翻訳した FASTA形式ファイル	毎日	
	blast/		上記FASTA形式ファイルのBLASTデータベース		







#### NIGのスパコンにすでに整備してあるデータベースを利用する

```
[dstep@nt098 dstep20180126] $ ls /usr/local/seq/
blast chemicaldb entity fasta flat igenome old
                                                     taxonomy work
[dstep@nt098 dstep20180126] $ ls /usr/local/seq/blast
ddbj-unified-all embl
                                                     ncbi
                                                             refseq-upd
                            genbank
                                         genpept
ddbj-unified-new embl-upd genbank-upd genpept-upd refseg uniprot
[dstep@nt098 dstep20180126]$ ls
hemoglobin b.fa
DRR016430.fastg README.md time.gsub time.sh
[dstep@nt098 dstep20180126]$ cat hemoglobin b.fa
>NP 000509.1 hemoglobin subunit beta [Homo sapiens]
MVHLTPEEKSAVTALWGKVNVDEVGGEALGRLLVVYPWTORFFESFGDLSTPDAVMGNPKVKAHGKKVLG
AFSDGLAHLDNLKGTFATLSELHCDKLHVDPENFRLLGNVLVCVLAHHFGKEFTPPVOAAYOKVVAGVAN
ALAHKYH
# blastp -query hemoglobin b.fa
        -db /usr/local/seg/blast/uniprot/swissprot
        -num alignments 1
        -outfmt 6
[dstep@nt098 dstep20180126]$ blastp -query hemoglobin b.fa -db /usr/local/seq/blast/uniprot/
swissprot -num alignments 1 -outfmt 6
NP 000509.1 sp|P68873|HBB PANTR100.00014700114711473.25e-104301
```







#### 3-3. その他のゲノムの基礎データの登録サイト (オススメいくつか)

https://asia.ensembl.org/index.html



https://phytozome.jgi.doe.gov/pz/portal.html



https://gold.jgi.doe.gov/



http://www.genome.jp/kegg/catalog/org\_list.html







## 3. 欲しいデータを取得する (ftp経由)

# EnsemblからcDNAファイルを取得する方法を試しましょう https://asia.ensembl.org/info/data/ftp/index.html



Click!!







## Ensemblからanonymous FTPで、cDNAファイルを取得する方法を試しましょう

```
ftp://ftp.ensembl.org/pub/release-91/fasta/drosophila_melanogaster/cdna/ の一覧

金前 上位のディレクトリーへ移動

名前 サイズ 最終更新日時

CHECKSUMS 1 KB 2017/11/29 13:33:00 JST

Drosophila_melanogaster.BDGP6.cdna.all.fa.gz 16973 KB 2017/11/20 23:37:00 JST

README 3 KB 2017/11/20 23:37:00 JST
```

#### [dstep@nt093 dat]\$ ftp -i ftp.ensembl.org

```
Name (ftp.ensembl.org:dstep): anonymous
331 Please specify the password.
Password: <your-email-address>
230 Login successful.
Remote system type is UNIX.
Using binary mode to transfer files.
ftp> cd pub/release-91/fasta/drosophila melanogaster/cdna
ftp> 1s
227 Entering Passive Mode (193,62,193,8,246,104)
150 Here comes the directory listing.
              1 ftp
                                        76 Nov 29 13:33 CHECKSUMS
-rw-r--r--
                         ftp
              1 ftp
                         ftp
                                  17379879 Nov 20 23:37 Drosophila melanogaster.BDGP6.cdna.all.fa.gz
-rwxrwxr-x
            1 ftp
-rwxrwxr-x
                         ftp
                                      2521 Nov 20 23:37 README
226 Directory send OK.
ftp> get Drosophila melanogaster.BDGP6.cdna.all.fa.gz
local: Drosophila melanogaster.BDGP6.cdna.all.fa.gz remote: Drosophila melanogaster.BDGP6.cdna.all.fa.gz
227 Entering Passive Mode (193,62,193,8,94,215)
150 Opening BINARY mode data connection for Drosophila melanogaster.BDGP6.cdna.all.fa.gz (17379879 bytes).
226 Transfer complete.
17379879 bytes received in 5.3 seconds (3.2e+03 Kbytes/s)
ftp> bye
221 Goodbye.
[dstep@nt093 dat]$
```







#### 3. 欲しいデータを取得する (ftp経由)

```
ftp> bye
221 Goodbye.
[dstep@nt093 dat]$

[dstep@nt093 dat]$ ls

DRR016430.fastq Drosophila_melanogaster.BDGP6.cdna.all.fa.gz

[dstep@nt093 dat]$ gunzip Drosophila_melanogaster.BDGP6.cdna.all.fa.gz

[dstep@nt093 dat]$ ls

DRR016430.fastq Drosophila_melanogaster.BDGP6.cdna.all.fa
```

今回は拡張子が \*.gzだったので、gunzipで解凍しました。 拡張子が\*bz2だった場合は、bunzip2で解凍しましょう







## http://trace.ddbj.nig.ac.jp/dra/index.html

DDBJ					Login & Submit   Databases 🕶   English   Contact					
Sequence Read Archive					Google カスタム検索 Q					
Home Handbook FAQ Search Download ▼						About DRA				
News										
2018年01	月18日 <b>New</b> : <b>Pl</b> a	anned DF	A submissi	on system restor	ration: 22th,	January (Mond	ay) more			
2018年01	月18日 <b>New</b> : <b>DF</b>	RA 登録シ	ステムの復旧	<b>予定: 1/22 (月)</b> mor	e					
2017年12	月22日: <b>ディスク</b>	障害により	DRA 登録シ	ノステムの停止 more.						
Collaborat							ide Sequence Database Read Archive (ERA) との国際協力のも			

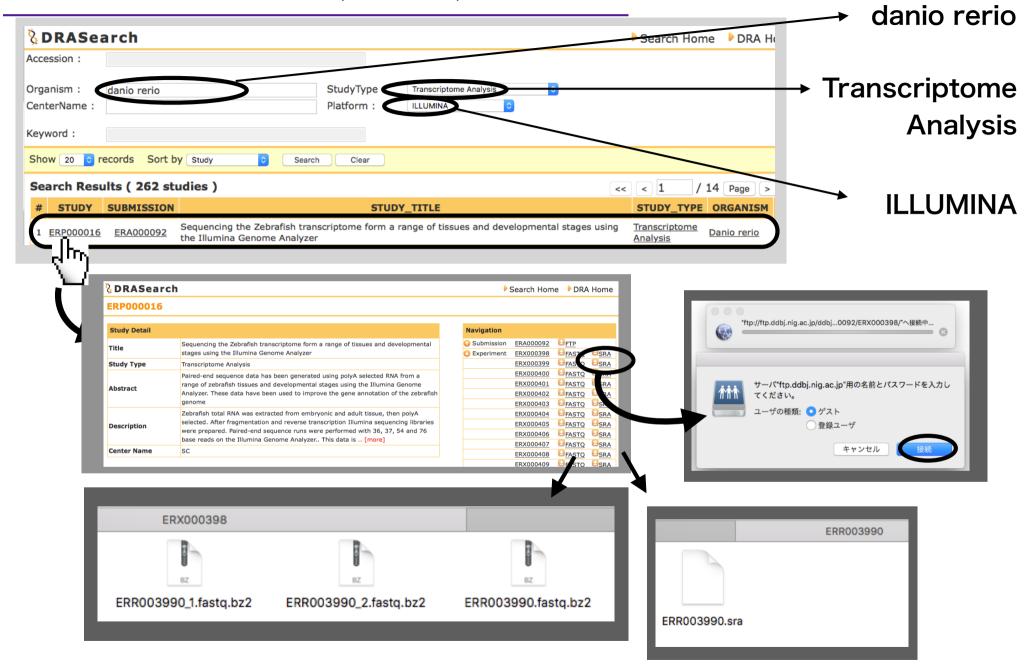


§ DRASearch							
Accession :							
Organism :	StudyType : •						
CenterName :	Platform:						
Keyword:							
Show 20 \$\directric{\directric}{\directric}\rightarrow Sort by Study \$\directric{\directric}{\directric}\rightarrow Search	Clear						











## /ddbj\_database/dra/fastq/ER/

#### 🚹 [親ディレクトリ]

名前	サイズ	更新日		
ERR003990.fastq.bz2	63.4 kB	2015/10/12 9	:00:00	
ERR003990_1.fastq.bz2	新しいタブで開く		00:00	# Control key を押しながらクリック
ERR003990_2.fastq.bz2	新しいウインドウ シークレット ウィ	で囲く インドウでリンクを開く	00:00	" Control Rey 21 Coan 37777
ERR003991.fastq.bz2	リンク先を別名で	保存	00:00	
ERR003991_1.fastq.bz2			00:00	
ERR003991_2.fastq.bz2	検証		00:00	
ERR003992.fastq.bz2	1.5 kB	2015/10/12 9	:00:00	
ERR003992_1.fastq.bz2	162 MB	2015/10/12 9	:00:00	
ERR003992_2.fastq.bz2	181 MB	2015/10/12 9	:00:00	

ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj\_database/dra/fastq/ERA000/ERA000092/ERX000398/ERR003990\_1.fastq.bz2



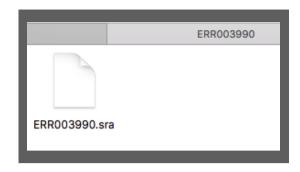


#後の作業のために下記4つのファイルをダウンロードしておく

```
[dstep@nt094 dstep20180126]$ wget ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/fastq/ERA000/ERA000092/ERX000398/ERR003991_1.fastq.bz2
[dstep@nt094 dstep20180126]$ wget ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/fastq/ERA000/ERA000092/ERX000398/ERR003991_2.fastq.bz2
[dstep@nt094 dstep20180126]$ wget ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/fastq/ERA000/ERA000092/ERX000398/ERR003992_1.fastq.bz2
[dstep@nt094 dstep20180126]$ wget ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/fastq/ERA000/ERA000092/ERX000398/ERR003992_2.fastq.bz2
[dstep@nt094 dstep20180126]$ bunzip2 ERR00399*bz2 # <- 時間がかかる
```







# fastq-dump ERR003990.sra

/usr/local/pkg/sra-tools/2.5.7/bin/fastq-dump.2.5.7 --split-files ERR003990.sra <- やってはいけない

# qsub コマンドを利用する。必ず!!

[dstep@nt094 dstep20180126]\$ cat sra2fastq.sh

<- qsub用のスクリプトを作成して、

```
#!/bin/sh
#$ -S /bin/bash
#$ -cwd
#$ -l short
#$ -l s_vmem=1G,mem_req=1G
#$ -o ./
#$ -e ./

source ~/.bashrc

FASTQDUMP="/usr/local/pkg/sra-tools/2.5.7/bin/fastq-dump.2.5.7"
Dbdir="/home/dstep/tanomare/dstep20180126"

$FASTQDUMP --split-files ERR003990.sra
```

[dstep@nt094 dstep20180126]\$ qsub sra2fastq.qsub

<- qsubコマンドを利用して計算機に投入



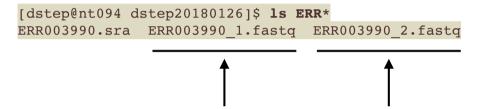






[dstep@nt094 dstep20180126]\$ qsub sra2fastq.qsub

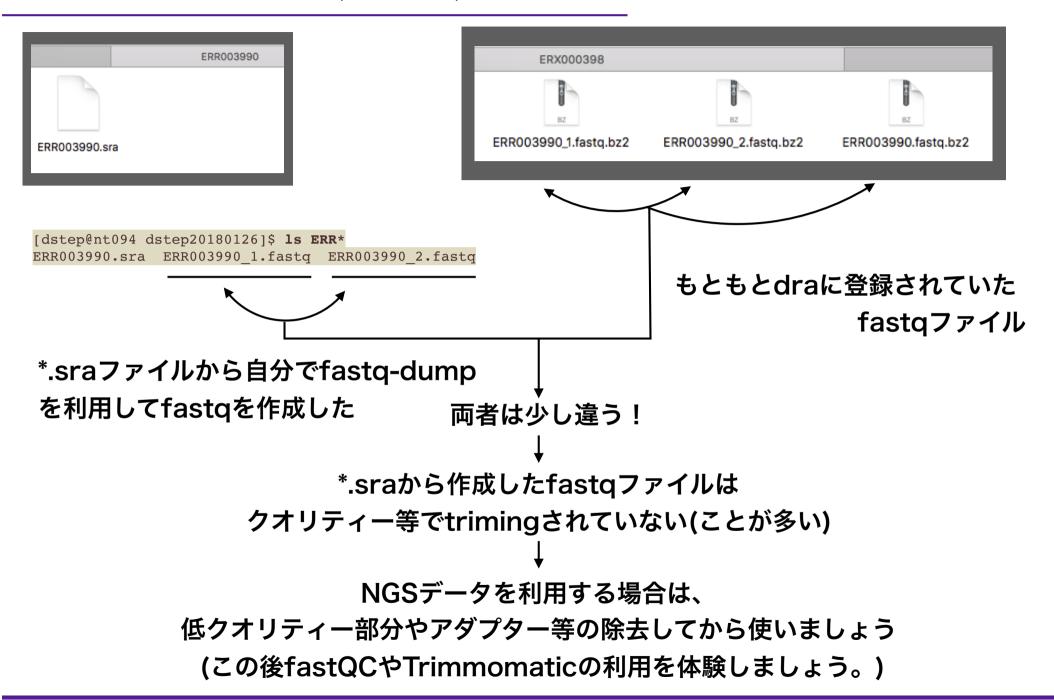
<- qsubコマンドを利用して計算機に投入



SRAファイルから、ペアエンドのfastqファイルが取得できた









#### 3. 欲しいデータを取得する

以上で、

- 3-1. NIGのスパコンにすでに整備してあるデータベースを利用する
- 3-2. その他のゲノムの基礎データの登録サイト (いくつか)
- 3-3. DRAから取得

これらの典型的なデータの取得方法を学びました。

Webブラウザからクリックしてダウンロードする場合、

wgetやcurlコマンドを利用する場合、

ftpコマンドを利用する場合、などがありました。

またDRAやSRAに特徴的なこととしてfastq-dumpの利用方法も学びました。

なお、DRAから \*.sraファイルを取得すると、cfq フォーマット(solidのcolor space)の配列という場合があります。cfqからfqへの変換方法を知っておきたい方ははおられますか?





#### 4. 自分の環境を使いやすくする

UNIX系の計算機環境では、自分の利用している環境を使いやすくするために、環境変数や各種設定ファイルの編集方法を学んでいなくてはなりません。本来最初に学ぶべきこれらの事柄をここまでは避けて説明してきました。

NIGの大型計算機には主要なゲノム解析様のプログラムがかなりインストールされていますが、これらを利用するためにも環境変数について学ばなければなりません。

また利用者が利用したいプログラムがインストールされていない場合は、利用者ご自身でご自身の計算機環境にそのプログラムをインストールする必要があるでしょう。

- 4-1. 環境変数について学びましょう
- 4-2. ローカルに好みのプログラムをインストールすることを学びましょう。





#### 4. 1-4. 環境変数 (6/8)のおさらい (2/7)

```
# gloginしたターミナルにて
echo "TEST"
printenv
printenv
printenv | sed -e "s/=.*//"
echo $HOME
echo $SHELL
echo SPWD
echo $USER
echo SPATH
time
which time
[dstep@nt098 ~]$ which time
/usr/bin/time
                               # time コマンドは /usr/binの下においてある
echo $PATH
                               # /usr/binというディレクトリは確かに環境変数PATHの中に記載されている
```

[dstep@nt098 ~]\$ echo \$PATH
/usr/local/bin:/bin:/usr/bin:/usr/local/sbin:/sbin:/opt/ibutils/bin:/opt/intel/
itac/8.1.3.037/bin:/home/dstep/local/bin # 実際の表示とは変えてあります







# 4. 1-5. 利用可能OSS (7/8) のおさらい (3/7)



		· -			
	0.5.9	/usr/local/pkg/bwa/0.5.9	0 0	0 0	2012/02/07 11:07
	1.6	/usr/local/pkg/canu/v1.6	0 0	0 0	2017/10/19 14:22
canu	4.5	/usr/local/pkg/canu/v1.5	0 0	0 0	2017/05/18 15:42
	1.5	/usr/local/pkg/canu/current	0 0	0 0	2017/05/18 15:42
	0.69-6	/usr/local/nkg/circos/0.69-6	0.0	0 0	2017/10/19 14:36

#### /usr/local/pkg/canu/current

[dstep@nt094 ~]\$ /usr/local/pkg/canu/current/bin/canu --version

Canu snapshot v1.5 +43 changes (r8243 f05c81531c19887459ca53ac3702509ee70eac22)

# full pathを打たないで使えるようにしたい

[dstep@nt094 ~]\$ canu

-bash: canu: コマンドが見つかりません

- # 環境変数PATHにcanuのfull pathを追加する
- # 下記は、打ち間違えると嫌な目にあいます。
- \$ export PATH=\$PATH:"/usr/local/pkg/canu/current/bin"
- # 確かにcanuと打つだけで、canuが使えるようになった。
- \$ which canu

/usr/local/pkg/canu/current/bin/canu

- # 今後もずっと環境変数PATHにcanuのfull pathを追加されるようにする
- # 下記は、打ち間違えるとひどい目にあいます。慎重に!!(もしくは試さない)
- \$ echo 'export PATH=\$PATH:"/usr/local/pkg/canu/current/bin"' >>~/.bashrc
- \$ source ~/.bashrc





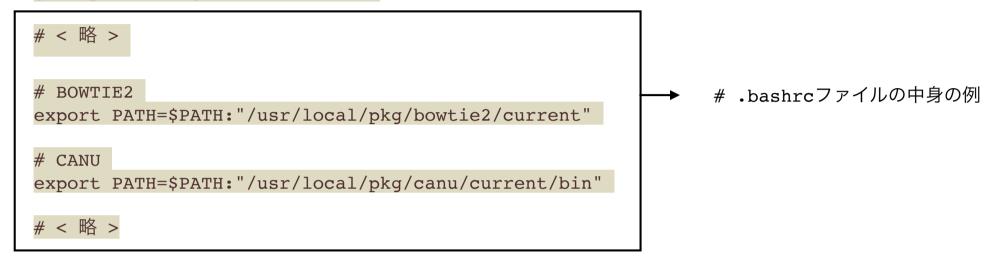




## 4. 自分の環境を使いやすくする (4/7)

# すでにインストールしてあるプログラムについては、PATHを通すだけで利用できる。

[dstep@nt098 ~]\$ cat ~/.bashrc



- # 自分で好みのプログラムをインストールする方法は!?
- # Gblocksというプログラムのインストールを体験してみましょう。
- # Gblocksは、SpainのCastresana Labが開発したアライメントの保存領域選択ツールです。
- # http://molevol.cmima.csic.es/castresana/Gblocks.html
- # http://genome.gsc.riken.jp/osc/english/dataresource/
- # http://molevol.cmima.csic.es/castresana/Gblocks/Gblocks\_Linux64\_0.91b.tar.Z







# 4. 自分の環境を使いやすくする (5/7) Gblocksの install

```
# http://molevol.cmima.csic.es/castresana/Gblocks/Gblocks Linux64 0.91b.tar.Z
 # Gblocksのインストール
                                                                          TagDust

    DESCRIPTION: TagDust is a program to eliminate artifactual reads fro

    REQUIREMENTS: Unix / Linux.

    LICENSE: GNU General Public License

 # ホームディレクトリにソースファイルを格納するディレクトリを作ります

    CITEATION:

    Lassmann T., et al. (2009) TagDust - A program to eliminate artifact

[dstep@nt098 src]$ mkdir ~/src

    SOFTWARE DOWNLOAD: tagdt

                                                                                              新しいタブで開く
[dstep@nt098 src]$ mkdir ~/src/qblocks

    CONTACT: timolassmann@gr

                                                                                          ├rr 新しいウインドウで開く
[dstep@nt098 src]$ cd ~/src/qblocks
                                                                          EdgeExpressDB (eeDB)
                                                                                              シークレット ウインドウでリン
[dstep@nt098 gblocks]$ pwd

    DESCRIPTION: EdgeExpressDB

                                                                                              リンク先を別名で保存...
                                                                            datasets. It is designed for scaling
/home/dstep/src/qblocks
                                                                            available via CPAN and is being t
                                                                                             リンクのアドレスをコピー
 # wgetでソースファイルを取得取得
[dstep@nt098 gblocks]$ wget http://molevol.cmima.csic.es/castresana/Gblocks/Gblocks Linux64 0.91b.tar.Z
                                             Tダウンロード先のURLはコピペで良い
 # gunzipと tarでソースファイルを解凍
  [dstep@nt098 gblocks]$ Gblocks Linux64 0.91b.tar.Z
  [dstep@nt098 qblocks]$ 1s
  Gblocks Linux64 0.91b.tar
  [dstep@nt098 tmp]$ tar xvf Gblocks Linux64 0.91b.tar
  [dstep@nt098 tmp]$ ls
                                                    # インストールといってもGblocksは解凍するだけですぐ使える
  Gblocks 0.91b Gblocks Linux64 0.91b.tar
  [dstep@nt098 tmp]$ cd Gblocks 0.91b
  [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ ls [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ cat nad3.pir
  Documentation Gblocks more alignments nad3.pir paths
  [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ cat nad3.pir
  [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ ./Gblocks nad3.pir -t=p -e=-gb1 -b4=5 -d=y
  [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ ls
                                                        nad3.pir-qb1PS
  Documentation more alignments nad3.pir-qb1
  Gblocks
                                    nad3.pir-qb1.htm paths
                  nad3.pir
 [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ cat nad3.pir-qb1
```







# 4. 自分の環境を使いやすくする (6/7)

- # Gblocksを適切なディレクトリ(今回は ~/local/binを設定)に移動させる。
- # 環境変数 PATH に ~/local/binを追加する。

```
[dstep@nt098 Gblocks_0.91b]$ mkdir ~/local
[dstep@nt098 Gblocks_0.91b]$ mkdir ~/local/bin
[dstep@nt098 Gblocks_0.91b]$ cp Gblocks ~/local/bin
```

# 下記は、打ち間違えるとひどい目にあいます。慎重に!! (不安なら試さない)

```
[dstep@nt098 Gblocks_0.91b]$ echo 'export PATH=$PATH:"/usr/local/pkg/canu/current/bin"' >>~/.bashrc [dstep@nt098 Gblocks_0.91b]$ source ~/.bashrc
```

- # Gblocksは解凍するだけですぐに使えました。
- # 他の多くのプログラムは、
  - ./configure -prefix="~/local/bin"
    make
    make install
- # としないと、動くプログラムが作成されません。
- # ./configure の後ろにオプションとして、-prefix="~/local/bin"
- # としておくのが、ローカル環境にプログラムをインストールする時のTips(コツ)です。





## 4. 自分の環境を使いやすくする (7/7)

以上で、自分の環境へ好みのプログラムをインストールする基礎を学びました

1. 環境変数について学びました。特にPATH環境変数を学びました。 プログラムがどのディレクトリに存在するかはPATHに教えなければなりません。 もし自分のプログラムを~/local/binに入れることにした場合は、~/.bashrcファイルに

export PATH=\$PATH:"~/local/bin"

と記載します。

~/local/bin以外のディレクトリにプログラムが存在する場合は、そのディレクトリを 環境変数PATHに追加しましょう。

例えば. nigの大型計算機にすでにインストールされているbowtie2を利用したければ

export PATH=\$PATH:"/usr/local/pkg/bowtie2/current"

などとすると利用できます。

2. nigの大型計算機に自分でプログラムをインストールする例を学びました。 プログラムのインストール方法は、プログラム毎に様々です。 READMEかINSTALLファイルに記載してあることが多いです。

その手順が ./configure; make; make install の3ステップのものが多いですが、 この場合、./configureをする際に、./configure \_prefix="~/local/bin" などとする必要がある場合があります。







#### 5. short readのマッピング

ここまでで学んだことは、UNIX系OSの基本コマンドいくつか、大型計算機へのログイン方法、大型計算機へのコマンドの投入方法 (キューイングシステム)、必要な生物学データの取得と自分の環境 へのアップロード、必要なプログラムを自分の環境へインストールすること、などを学びました。

これらの知識のおさらいとして、実際に配列解析の手順の一例を体験してみましょう。参照配列にshort readの配列をマッピングして見ることにします。

# すでにダウンロード済みの下記の配列ファイルをリファレンス配列にマッピングしてみましょう

ERR003990 1.fastq ERR003990 2.fastq

#### # 手順は

- # ゼブラフィッシュのゲノム配列をリファレンス配列として取得しておく。(Ensembl)
- # 今回は下記サイトから、染色体9番の配列だけを取得して利用。

ftp://ftp.ensembl.org/pub/release-91/fasta/danio\_rerio/dna/Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.gz

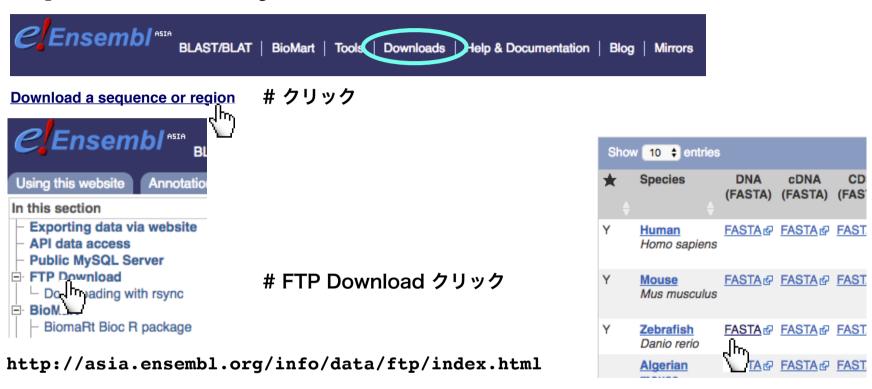
- # それぞれのfastqファイルのアダプターやクオリティーをfastQCでチェックする
- # Trimmomaticをインストールしておく
- #適切な値のクオリティーでフィルタリングする。Trimmomatic
- # 得られたHigh Qualityのreadを、リファレンスにbowtie2でマッピングする。
- # samtools でマッピングの様子を眺める。
- # samtools でpileupしたファイルを作成する。





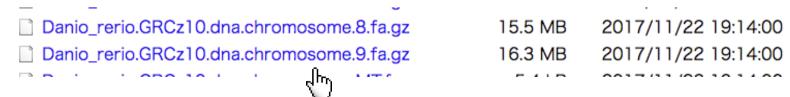
# ゼブラフィッシュのゲノム配列をリファレンス配列として取得しておく。(Ensembl)

http://asia.ensembl.org/index.html



# Zebrafishの DNA (FASTA)を クリック

ftp://ftp.ensembl.org/pub/release-91/fasta/danio rerio/dna/



ftp://ftp.ensembl.org/pub/release-91/fasta/danio\_rerio/dna/Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.gz







wget ftp://ftp.ensembl.org/pub/release-91/fasta/danio\_rerio/dna/Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.gz

↑ ダウンロード先のURLはコピペで良い

[dtep@nt098 dstep20180126]\$ **ls**DRR016430.sra

Danio rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.gz hemoglobin b.fa

[dtep@nt098 dstep20180126]\$ gunzip Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.gz

[dtep@nt098 dstep20180126]\$ **ls**DRR016430.sra

Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa hemoglobin\_b.fa

# これでゼブラフィッシュのリファレンスゲノム配列を取得できた







# 本来はそれぞれのfastqファイルのアダプターやクオリティーをfastQCでチェックする

# fastQCはご自身のパソコンで行うほうがだいたいうまくいきます。今回はスルー

# trimmomaticをインストールする

http://www.usadellab.org/cms/?page=trimmomatic

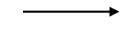
Trimmomatic: A flexible read trimming tool for Illumina NGS data

#### Citations

Bolger, A. M., Lohse, M., & Usadel, B. (2014). Trimmomatic: A flexible trimmer for Illumina Sequence Data. Bioinformatics, btu170.

#### **Downloading Trimmomatic**

Version 0.36: binary, source and manual



#### **Downloading Trimmomatic**

Version 0.36: binary source and manual リンクを新規タブで開く リンクを新規ウインドウで開く リンク先のファイルをダウンロード リンク先のファイルを別名でダウンロード... リンクをブックマークに追加... リンクをリーディングリストに追加 Paired End: リンクをコピー









#### –trimmomaticのインストール、続き———

```
[dstep@nt098 ~1$ cd ~
[dstep@nt098 ~1$ mkdir src/
[dstep@nt098 ~]$ mkdir src/trimmomatic
[dstep@nt098 ~]$ cd src/trimmomatic
[dstep@nt098 trimmomatic]$ wget http://www.usadellab.org/cms/uploads/
supplementary/Trimmomatic/Trimmomatic-0.36.zip
                                                 ダウンロード先のURLはコピペで良い
[dstep@nt098 trimmomatic]$ 1s
Trimmomatic-0.36.zip
[dstep@nt098 trimmomatic]$ unzip Trimmomatic-0.36.zip
Archive: Trimmomatic-0.36.zip
  creating: Trimmomatic-0.36/
 inflating: Trimmomatic-0.36/LICENSE
[dstep@nt098 trimmomatic]$ ls
Trimmomatic-0.36 Trimmomatic-0.36.zip
[dstep@nt098 trimmomatic]$ cd Trimmomatic-0.36
[dstep@nt098 Trimmomatic-0.36]$ 1s
LICENSE adapters trimmomatic-0.36.jar
[dstep@nt098 Trimmomatic-0.36]$ pwd
 /home/dstep/src/trimmomatic/Trimmomatic-0.36
                                                  <- # このpathを覚えておく
                           # trimmomaticもダウンロードして解凍すればそれで使える
```





# ここまでで、リファレンス配列とクエリーになるRNAseq配列の取得がすみ、 # RNAseqのクオリティーフィルターをかけるためのTrimmomaticのインストール # が済んだ。次はTrimmomaticでRNAseqのクオリティーフィルターをかける。

# データのあるディレクトリに戻る

[dstep@nt098 Trimmomatic-0.36]\$ cd ~/dstep20180126

# 小量データのサンプルファイルを作る

[dstep@nt098 dstep20180126] head -4000 ERR003990\_1.fastq >s1.fastq [dstep@nt098 dstep20180126] head -4000 ERR003990 2.fastq >s2.fastq

[dstep@nt098 dstep20180126] java -jar ~/src/trimmomatic/Trimmomatic-0.36/trimmomatic-0.36.jar PE s1.fastq s2.fastq s1.tmf.fastq s1.tmf.unp.fastq s2.tmf.fastq s2.tmf.fastq s2.tmf.fastq s2.tmf.g.20 MINLEN 36





#### –trimmomaticのインストール、続き———

```
[dstep@nt098 ~1$ cd ~
[dstep@nt098 ~1$ mkdir src/
[dstep@nt098 ~]$ mkdir src/trimmomatic
[dstep@nt098 ~]$ cd src/trimmomatic
[dstep@nt098 trimmomatic]$ wget http://www.usadellab.org/cms/uploads/
supplementary/Trimmomatic/Trimmomatic-0.36.zip
                                                 ダウンロード先のURLはコピペで良い
[dstep@nt098 trimmomatic]$ 1s
Trimmomatic-0.36.zip
[dstep@nt098 trimmomatic]$ unzip Trimmomatic-0.36.zip
Archive: Trimmomatic-0.36.zip
  creating: Trimmomatic-0.36/
 inflating: Trimmomatic-0.36/LICENSE
[dstep@nt098 trimmomatic]$ ls
Trimmomatic-0.36 Trimmomatic-0.36.zip
[dstep@nt098 trimmomatic]$ cd Trimmomatic-0.36
[dstep@nt098 Trimmomatic-0.36]$ 1s
LICENSE adapters trimmomatic-0.36.jar
[dstep@nt098 Trimmomatic-0.36]$ pwd
 /home/dstep/src/trimmomatic/Trimmomatic-0.36
                                                  <- # このpathを覚えておく
                           # trimmomaticもダウンロードして解凍すればそれで使える
```





```
# trimmomaticを使ってクオリティーフィルターをします
# 下記のコマンドで結果が得られるはずですが、
# java -jar trimmomatic.jar PE s_1.fq s_2.fq s_1.filt s_1.unpair.fq s_2.filt.fq s_2.unpair.fq TRAILING:5 MINLEN:35

java -jar -/src/trimmomatic/Trimmomatic-0.36/trimmomatic-0.36.jar \
PE ERR003990_1.fastq ERR003990_2.fastq \
ERR003990_1.trimmomatic.fq ERR003990_1.trimmomatic.unp.fq \
ERR003990_2.trimmomatic.fq ERR003990_2.trimmomatic.unp.fq \
TRAILING:8 MINLEN:36

# すでに学んだ通り、qsub様のスクリプトを作成してqsubに投げる

[dstep@nt098 dstep20180126]$ cat trimmomatic.sh
```

```
#!/bin/sh
#$ -S /bin/sh
#$ -cwd
#$ -l s_vmem=10G,mem_req=10G
#$ -l short
#$ -pe def_slot 1
#$ -o ./log
#$ -e ./log

source ~/.bashrc
cd /home/dstep/tanomare/dstep20180126

java -jar ~/src/trimmomatic/Trimmomatic-0.36/trimmomatic-0.36.jar PE ERR003990_1.fastq
ERR003990_2.fastq ERR003990_1.trimmomatic.fq ERR003990_1.trimmomatic.unp.fq
ERR003990_2.trimmomatic.fq ERR003990_2.trimmomatic.unp.fq TRAILING:8 MINLEN:36
```







```
# trimmomaticを使ってクオリティーフィルターをします
# すでに学んだ通り、qsub様のスクリプトを作成してqsubに投げる
[dstep@nt098 dstep20180126]$ mkdir log
[dstep@nt098 dstep20180126]$ qsub trimmomatic.sh
# 少し時間がかかります
[dstep@nt098 dstep20180126]$ qstat
# qstat を何度か使って、コマンドの進み具合を見ます
[dstep@nt098 dstep20180126]$ ls log
[dstep@nt098 dstep20180126]$ cat log/trimmomatic.sh.e*
# ERR003990 1.fastqとERR003990 2.fastq の二つの元ファイルから、
# クオリティーフィルターをかけた ERR003990 1.trimmomatic.fgとERR003990 2.trimmomatic.fg
#が得られた。
[dstep@nt098 dstep20180126]$ 1s ERR*
ERR003990.sra
                               ERR003990 2.fastq
                               ERR003990 2.trimmomatic.fq
ERR003990 1.fastq
                               ERR003990 2.trimmomatic.unp.fq
ERR003990 1.trimmomatic.fq
ERR003990 1.trimmomatic.unp.fq
[dstep@nt098 dstep20180126]$ ls ERR*
[dstep@nt098 dstep20180126]$ wc ERR003990 *.fq
  21290748 42581496 950083932 ERR003990 1.trimmomatic.fg
                                                                 - # ペアは同数
               754048 16799544 ERR003990 1.trimmomatic.unp.fq
    377024
  21290748 42581496 950198864 ERR003990 2.trimmomatic.fg
                                                                  になっている
                      19079832 ERR003990 2.trimmomatic.unp.fq
    427972
               855944
```





# # 必要なファイルが揃いました [dstep@nt098 dstep20180126]\$ ls Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa ERR003990\_1.trimmomatic.fq ERR003990\_2.trimmomatic.fq

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ /usr/local/bin/bowtie2-build -h

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ bowtie2-build -f
Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa
# スセルドナギイカル配列なので、合同はbowite2 buildをgaubに提ばませ

# それほど大きくない配列なので、今回はbowite2-buildをqsubに投げませんが # こういう場合も本来はqsubコマンドを作成してください。

#-h オプションをつけると使い方を表示する

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ ls

Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa

Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.1.bt2

Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.2.bt2

Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.3.bt2

Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.4.bt2

Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.rev.1.bt2

Danio\_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.rev.2.bt2







# 必要なファイルが揃いました

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ cat bowtie2.qsub

```
#!/bin/sh
#$ -S /bin/sh
#$ -cwd
#$ -1 s_vmem=10G,mem_req=10G
#$ -1 short
#$ -pe def_slot 1
#$ -o ./log
#$ -e ./log

source ~/.bashrc

bowtie2 -q -x Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa -1
ERR003990_1.trimmomatic.fq -2 ERR003990_2.trimmomatic.fq
-S danio_ERR003990.sam

# -Sオプションに与えた名前が出力
```

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ qsub bowtie2.qsub

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ wc danio\_ERR003990.sam







#### 5. マッピング

# samtoolsでの一連の作業

```
[dstep@nt098 dstep20180126]$ samtools view -bt Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa -o danio_ERR003990.bam danio_ERR003990.sam
[dstep@nt098 dstep20180126]$ samtools sort -o danio_ERR003990.sorted.bam danio_ERR003990.bam
[dstep@nt098 dstep20180126]$ samtools index danio_ERR003990.sorted.bam
[dstep@nt098 dstep20180126]$ samtools faidx Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa
[dstep@nt098 dstep20180126]$ samtools tview danio_ERR003990.sorted.bam
Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa
```



# キーボードのLとHで配列上を見ることができる。 # キーボードのgで終了することができる







#### 5. マッピング

以上で、

リファレンスとなるゲノム配列にshort readのクエリーをマッピングする手順を学びました。 実際には、この後さらに、マッピングの深さの分布やエラーやSNPの分布をpileupして データを統計的に解析する (集団遺伝学的解析など)、マッピングによって得られたピークを検出する (ChIPSeq、DNase-seq、ATAC-seqなど)、マッピング領域を取り出す(RNAseqによる遺伝子予測など)、様々な解析が必要になります。

これら個別の解析方法についてはお伝えした参考図書が参考になるでしょう。





# 6. キューイングシステム利用のための簡単なBASHプログラミング

ここまでで学んだqsubコマンドの利用方法は非常に初歩的なもののみです。ご自身の解析時間の短縮のためにも、大型計算機のリソースを有効利用するためにも、より効率的なshellプログラムの書き方を学びましょう。





#### 6. キューイングシステム利用のための簡単なBASHプログラミング

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ cat bowtie2\_multi.qsub

【# \$SGE\_TASK\_ID に-tで与えた数値が順に入る

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ qsub -t 1-3 bowtie2\_multi.qsub
Your job-array 10398586.1-3:1 ("bowtie2 multi.qsub") has been submitted

[	[dstep@nt098 dstep20180126]\$ qstat													
_	job-ID	prior	name	user	state	submit/star	rt at	queue	jclass	slots ja-t	ask-ID			
-														
	10397226	0.25133	QLOGIN	dstep	r	01/19/2018	13:12:54	login.q@nt098i		1				
	10398580	0.25011	QLOGIN	dstep	r	01/19/2018	16:39:45	login.q@nt099i		1				
	10398586	0.25000	bowtie2_mu	dstep	r	01/19/2018	16:58:54	short.q@nt115i		1 1				
	10398586	0.25000	bowtie2_mu	dstep	r	01/19/2018	16:58:54	short.q@nt115i		1 2				
	10398586	0.25000	bowtie2_mu	dstep	r	01/19/2018	16:58:54	short.q@nt115i		1 3				







## 6. キューイングシステム利用のための簡単なBASHプログラミング

# 下記三つのファイルが得られた。

```
danio.ERR003990_1.trimmomatic.fq.pe.sam danio.ERR003991_1.fastq.pe.sam danio.ERR003992_1.fastq.pe.sam
```





7. (時間に余裕があれば) 描画のための簡単なRプログラミング (1/9)

Rについては当日、講演者が十作業をお見せするのみにいたします。



